

# 神々を つなぐ

3県知事に聞く

(1面から続く)

—島根県は隣県の鳥取県と観光や人材交流などで協力。さらに古事記を通じて、他県との連携も生まれている。

溝口 JRグループと島根、鳥取県による大型観光企画「山陰アステイネーションキャンペン」(DCC)は今年10、12月。これに合わせ鳥取県は「国際シンポジウムに宮崎、福井まんが博」、島根県は「神話博しまね」を開催する。もともと両県は宍道湖、中海で一つの圏域を構成している地域もあり、広域観光

は大きな課題だった。鳥取、島根で連携してもらえそうな仕組みをつくりたい。

また、島根や奈良、鳥取県など12県知事で「自立と分散で日本を変えよう」と分断で日本を変えようとする知事ネットワークを構成。このうち島根を含む5県で、歴史や文化を切り口に広域観光をテーマにした共同研究した。今年3月に報告書をまとめ、古事記をテーマに県境をまたぐ観光の提案などを行った。1月には古事記編さん13000年を記念した奈良県主催のシンポジウムに宮崎、福井など5県知事が参加。今までになかった試みた。

## 県境またぐ観光提案



「願い石」がある玉作湯神社。近くには玉造温泉街があり、若い女性らが参拝に訪れる—島根県松江市

流があったことを忘れてはならない。高速道路整備の遅れなど、島根と宮崎県はよく似ている。基幹的な交

通網の整備を国に要望する一方で、ともに魅力づくりで努力していきたい。

—古事記の関連書籍が出版され、雑誌が特集を組むなど関心は高まっている。

溝口 日本の成り立ちが一体どうだったのかと、神話の世界や古代に関心を持つ人が増えている。大きな流れというならば、厳しい経済状況が続く中で人々は安らぎを求めている。経済が成長し、日本が前に向かって進んでいる時代にはなかったこと。大きな価値観の変化が日本全体で起こっている。欧州など外国人は日本の工業製品よりも、古いものに関心を抱いてきた。

—「神々の国しまね」プロジェクトで最終的に目指

すものは何か。溝口 県民は必ずしも神話や古事記を詳しく知っていないわけではない。プロジェクトでは、ホテル従業員やタクシー運転手向けの研修会もやってきた。過去から受け継いできた文化や伝統、歴史をあらためて見直す機会だ。神話を学ぶことで、この地域はやはり魅力

をもち、人々を惹きつけた地域なんだと子供たちも知る。「よみがえるはじまりの物語」と神話博でうたっているように、今回のプロジェクトは「はじまり」がキーワード。13年の出雲大社大遷宮後も来てもらえるように、島根の魅力の本格的に知ってもらう努力、作業を始めていくということだ。

(鳥根県庁で)

古事記編さん 13000年

みやぎき 第3部